

三百年の灯りを日常に

魂

を暖かく包む和ろうそく

自然素材、手作りにこだわる和ろうそくは、100%植物原料である。ハゼの実から取れる九州産の「ハゼ蠟」と、和紙に「い草」の皮を取り除いた灯芯が巻きつけられており、蠟垂れや煙が少なく、使用後の処理も簡単である。

仏事や神仏のためだけの存在に感じられるが、和ろうそくの炎がゆとりと安らぎ、そして、贅沢な気分を空間に作り出す。

和ろうそく

磯部

岡崎

三百年以上の歴史を持つ和蠟燭職人磯部亮次さんは、現在九代目。岡崎市は、家康公が浄土宗を加護したことで京都に並ぶ寺院の多い街であり、仏事に欠かせない「和蠟燭」の産地となった。

和ろうそくの魅力を

若

者に発信

和ろうそくの魅力を多くの人に知ってもらうために、見学や体験できる場所「灯庵」を2011年に開いた。「三百年の歴史と灯り」を体感し、和ろうそくがもつ幻想的な揺らめきと安らぎを感じてもらいたい。

世

界で認められた和ろうそく

2015年に日本文化や伝統芸能等を海外に紹介する「ジャパンウィーク」に参加。この年は、フィンランドのヘルシンキへ。2018年には、ニューヨーク「THIRTEEN CROSBY」に出品し、世界に日本の文化を伝える活動を始めた。食卓などで当たり前を使う海外では、100%植物性原料で手作りの日本の和蠟燭の評価はとても高い。

和ろうそくの伝承者

磯部さんは、蠟燭作りに励み、「サムライ日本プロジェクト」に参加するなど、日本の伝統を守るために尽力している。

Okazaki

New York